

表 10-11-9(3) 植物の保全すべき種の確認状況

保全すべき種(植物：ヒエガエリ)の確認状況	
種名 ヒエガエリ <i>Polypogon fugax</i>	
 <p>平成25年5月23日撮影</p>	<p>一般的生態</p> <p>日当たりのよい湿地に生育する多年草である。花期は6～8月。本州～琉球に分布する。「山梨県レッドデータブック」において、県内各地での調査不足だと思われる、としてDD(情報不足)に選定されている。</p>
保全すべき種の選定基準	
山梨県レッドデータブック情報不足	
確認状況	
春季調査時に周辺域の笹子川河川敷、水際の砂礫地に生育していた。	

(2) 予測及び評価の結果

1) 予測項目

予測項目は、以下の通りとした。工事中、及び存在・供用時における個々の植物の生育への影響について予測・評価を行った。

① 工事中

・造成等の土地の改変に伴う保全すべき植物種の生育への影響の有無及びその程度。

② 存在・供用時

・改変後の地形・樹木伐採後の状態における保全すべき植物種の生育への影響の有無及びその程度。

・発電所の稼働に伴う取水及び排水計画による保全すべき植物種の生育への影響の有無及びその程度。

2) 予測方法

予測は、保全すべき植物種の類似事例及び既存知見から生育分布域を把握し、1)で示した予測項目の直接的影響を考慮して現況との比較により予測した。

3) 予測地域・予測地点

調査地域を予測地域とした。

4) 予測対象時期

① 工事中

造成等の土地の改変を行う時期。

② 存在・供用時

発電所が定常状態（試運転後3ヶ月目）で稼働し、植物の生育が一定期間を経て安定した時期。

5) 予測結果

現地調査の結果、保全すべき植物種として3種が確認された。このうち、計画地内で確認された種はなかった。

各植物種の予測結果は表 10-11-10 に示すとおりである。

表 10-11-10 保全すべき植物種の予測結果

種名	生育場所別個体数				予測結果
	計画地	周辺域			
		B沢	笹子川		
			水中	砂礫地	
カワモズク			1×3m の範囲 に散生		<p>【工事中】 ○造成などの土地の改変による影響 本種の生育確認位置は周辺域の笹子川であり、本事業計画に基づく直接的な造成などの土地の改変による影響はないものと予測される。 また本種の生育確認位置は計画地東端より約200m下流の斜面際の小流路であり、主流路との間は堆積した土砂により隔てられている。計画地造成時に降雨に伴う濁水が笹子川に放流されることによる影響はないものと予測される。ただし、濁水の放流路が本種が生育する小流路に直接流入する場合は、影響があるものと予測される。</p>
					<p>【存在・供用時】 ○改変後の地形・樹木伐採後の状態による影響 本種の生育確認位置は計画地東端より約200m離れた周辺域の笹子川であり、改変後の地形・樹木伐採等の状態による影響はないものと予測される。 ○取水及び排水計画による影響 本事業計画に基づく取水及び排水計画の予測値は笹子川の現況とほぼ変化がないため、本事業計画に基づく取水及び排水計画による本種の生育への影響はないものと予測される。</p>
ツルカノコソウ			1株		<p>【工事中】 ○造成などの土地の改変による影響 本種の生育確認位置は周辺域のB沢であり、本事業計画に基づく造成などの土地の改変による影響はないものと予測される。</p>
					<p>【存在・供用時】 ○改変後の地形・樹木伐採後の状態による影響 本種の生育確認位置は周辺域のB沢であり、改変後の地形・樹木伐採等の状態による影響はないものと予測される。</p>
ヒエガエリ				8株	<p>【工事中】 ○造成などの土地の改変による影響 本種の生育確認位置は周辺域の笹子川砂礫地であり、本事業計画に基づく造成などの土地の改変による影響はないものと予測される。</p>
					<p>【存在・供用時】 ○改変後の地形・樹木伐採後の状態による影響 本種の生育確認位置は周辺域の笹子川砂礫地であり、改変後の地形・樹木伐採等の状態による影響はないものと予測される。</p>

6) 環境保全措置

環境保全措置の検討結果は、表 10-11-11 に示すとおりである。工事中の濁水の放流路がカワモズクの生育する小流路に直接流入する場合は影響があるものと予測されたが、環境保全措置を実施することによって影響は回避される。

表 10-11-11 環境保全措置の検討

環境保全措置	環境保全措置の内容	効果	効果の種類		
			回避	低減	代償
【工事中】					
希少植物へ配慮した計画・設計	<p>カワモズクは計画地造成時の降雨に伴う濁水の影響はないものと予測されたが、念のため濁水が本種が生育する小流路に直接流入する場合について検討した。</p> <p>計画地造成時の降雨に伴う濁水の放流路は、カワモズク生育地に直接流入するおそれのない箇所計画・設計するなどの配慮をする。放流路は計画地の北東端に計画されており、この計画箇所であればカワモズク生育地に直接流入するおそれはないものと考えられる。</p>	濁水が生育地に流入することの回避	○		

7) 評価方法

① 回避・低減の観点

工事中の造成等による土地の改変、存在・供用時の改変後の地形及び樹木伐採後の状態等における保全すべき植物種への影響は、事業者により実行可能な範囲内で回避され、又は低減されるかどうかを明らかにした。

8) 評価結果

① 回避・低減の観点

保全すべき植物種に関しては、表 10-11-11 の環境保全措置に示した内容を実施するものとする。保全すべき植物種についての評価結果は、表 10-11-12 に示すとおりである。

以上のことから、工事中の造成等による土地の改変、存在・供用時の改変後の地形及び樹木伐採後の状態等における保全すべき植物種への影響は、事業者により実行可能な範囲内で回避・低減される。

表 10-11-12 保全すべき植物種の評価結果

評価対象種	事業実施にあたり影響があると予測された種	評価結果
カワモズク	●	<p>本種の生育確認位置は周辺域の笹子川の計画地東端より約200m下流の斜面際の小流路であり、事業による影響はないものと予測された。</p> <p>ただし、計画地造成時の降雨に伴う濁水の放流路はカワモズク生育地に直接流入するおそれのない場所に計画・設計するなどの配慮をし、影響を回避する。雨水は計画地の北東端より放流する計画となっており、この計画箇所であればカワモズク生育地に直接流入するおそれはないものと考えられる。</p>
ツルカノコソウ	—	<p>本種の生育確認位置は周辺域のB沢であり、事業による影響はないものと考えられる。</p>
ヒエガエリ	—	<p>本種の生育確認位置は笹子川の砂礫地であり、事業による影響はないものと考えられる。</p>